藤崎中学校

福祉について

藤崎中学校　一年　工藤　優

私は今まで、「福祉」という言葉を意識して生活してきませんでした。ですが、学校で福祉施設訪問についての話を聞いてから、少し福祉について考えるようになりました。

まず、自分は、福祉についてどんなイメージを持っているのかを考えてみました。すると、「町で困っている人がいても、周りの人はあまり助けてあげない」や、「福祉施設は、暗いふんいきであまり楽しくない場所」などという、マイナスなイメージが自分の中に多くあることがわかりました。次に、なぜ福祉という言葉にマイナスなイメージが多いのか、という疑問について考えてみました。その結果、高齢者や障がいのある方などの介護をしている人たちがとても大変そうだから、という考えにたどりつきました。よくテレビでも、福祉施設の職員や、家族の人の介護をしている人などに関わる二ュースを聞くことがあります。そしてその度に大変そうだな、と思いながら見ているので、マイナ

スなイメージが強くなったのだと思います。ですが、実際福祉施設で体験学習をして、そのイメージもかきとびくらいの経験をしました。

私は、これまであまり高齢者の方と関わった機会がないので施設の利用者の方々にきっくあたられそうだ、という不安がありました。しかし、話してみると優しい人が多くてほっとしました。

施設ではいろいろな仕事を手伝ったのですが、やはり、思っていた通りの大変な仕事も多かったです。朝、利用者の方々が来る前に施設内を掃除したり、入浴の手伝いをしたり、配膳の手伝いをしたりなど、体力的に大変な仕事も多かったです。ですが、疲れたからといって休むことができないので、そこも大変だと思いました。

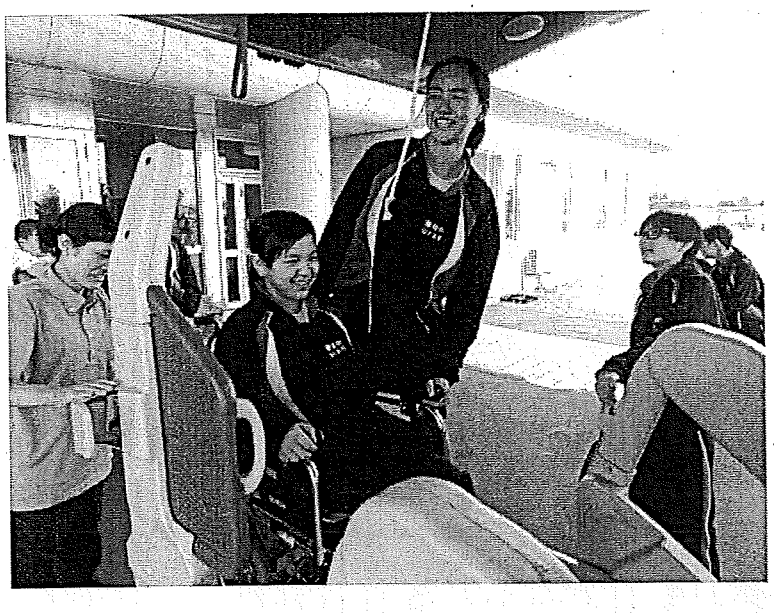
そして、何よりも意外だったのは、施設に笑顔が溢れていたことです。私は最初、施設は暗いふんいきだと思っていたのに、とても明るい場所だったので、びっくりしました。

また、利用者の方々にお茶を渡したり、座布団を渡したりという手伝いをしていたときに、利用者

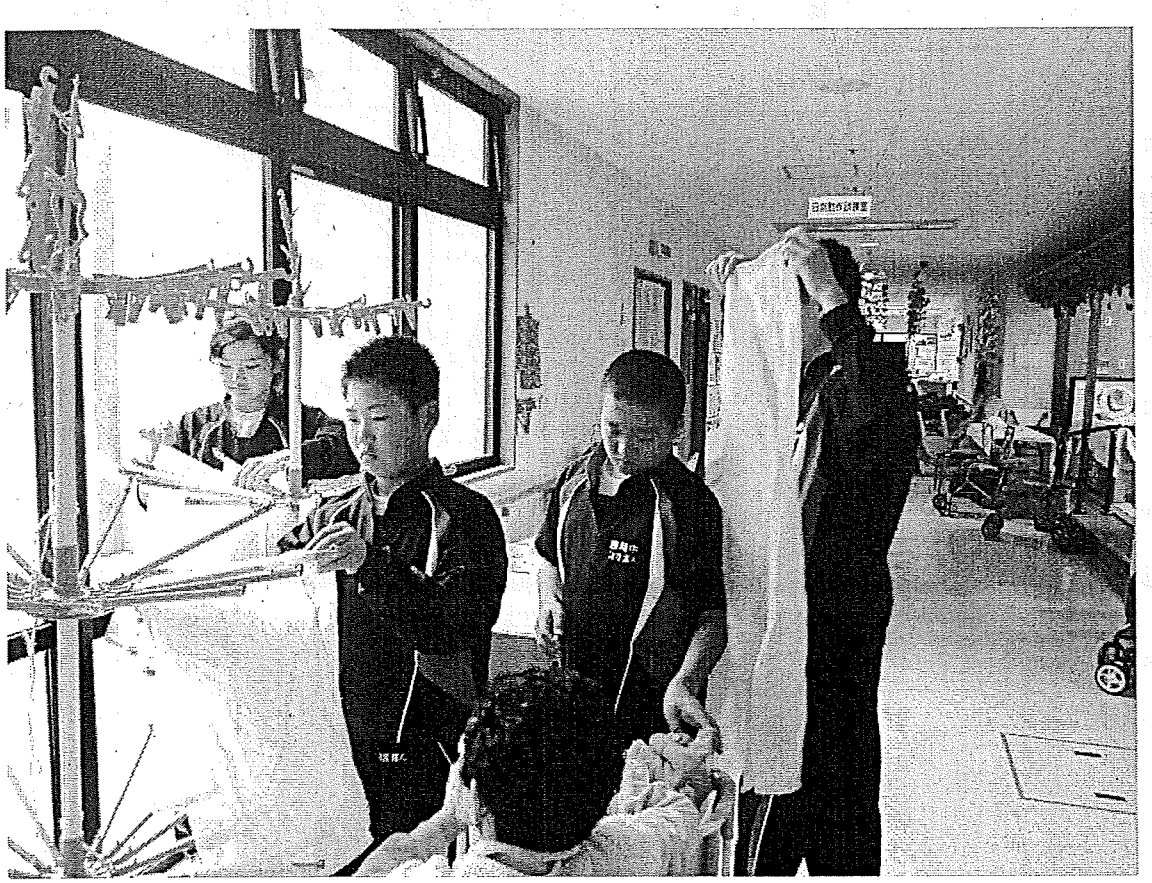
の方々に、笑顔で「ありがとう」と言われることがありました。その度に私は嬉しくなりました。そして同時に、福祉施設で働いている人たちが仕事を続けている理由はこれなのかな、と思いました。自分のしたことによって人々が笑顔になるというのは、とても幸せなことだと思います。ですから、日々の仕事が大変でも、その笑顔を見るために頑張れるのだと思いました。このとき、福祉についてのマイナスなイメージはほとんどなくなりました。

私はこの福祉体験学習によって、学んだことがあります。それは、人を助けると、世界に笑顔が増えるということです。

町で困っている人をたまに見かけると思うのですが、その困っている人を助けている人はあまり見かけることがありません。「人を助ける」ことは恥ずかしいことではないし、むしろ人にほこれるすばらしいことでもあります。私も積極的に人を助けられるようになりたいです。これから、困っている人を助けることができる人がもっと増えて、笑顔ももっと増えれば、この世界はもっと良くなるは



「社会のすべての人が幸福で安定した生活を営む」世の中が、福祉の実現した社会だといえると思うので、私もその社会の一員としてできることをしていきたいです。



手をさしのべられる人に

藤崎中学校一年　杉渕　憩瞳

僕は、福祉について甘く考えすぎていました。その理由として、実際に体験してみて、とても大変だと分かったからです。しかし、同時に、福祉についても、見直すことができました。

実際に体験したこととして、高齢者疑似体験と二日間の福祉施設訪問がありました。まず、高齢者疑似体験では、車いすに乗ったり押してあげたりと、車いすに乗っている人の苦労が分かりました。地面の穴やくぼみもすごく振動が伝わることが分かりました。また自分で車イスを押してみると、けっこうなかがいることが分かりました。若い僕達には、それほどきつくはなかったけれど、お年寄りには、すごく力が必要だということが分かりました。タオルで目かくしをして、目の不自由な人の体験をした時も、すごく怖くて、支えてあげる人が頼りなのかなぁと思いました。僕達は、声が出せて意思表示ができるけど、あまり話せない人だったら怖いという気持ちを口に出すことができないので

気づかってあげる必要があると感じました。支えるんが、きちんと指示を出してあげないと、目の不自由な人はとても怖いなと思いました。

次に、福祉施設訪問の、一日目には、車いす体験がありました。高齢者疑似体験で習ったことを活かして、うまく車いすの操作ができました。車いすは、道路（施設内）で乗ってみると、意外に振動が強くて驚きました。次に、布巾のような布をたたみました。そのあとに、食事の盛り付けをしました。普通のご飯もあれば、おかゆみたいにやわらかい食べ物や、ドロドロにしたようなものもありました。かむ力が弱かったりして誤飲してしまう恐れがあるから、そうしているのかなぁと思いました。それから、利用者さんのツーツ交換の練習もしました。ツーツ交換も、簡単なのかなと思っていたらしわがないようにたたんで、はじの方をきちんと布団の下に入れるなど、けっこう難しいなと思い、練習をしました。

そして、二日目。二日目は朝から忙しかったです。まず、利用者さんのツーツ交換をしました。前

日はあまり上手には、できなかったけど今回は上手く交換させることができました。次に、利用者さんが食べていた、ミキサー食ときざみ食の試食をしました。きざみ食は、食べやすいようにきざまれていて、飲みやすいように少しとろみがついていました。ミキサー食は、食べることができない人のために、すりつぶされていて、かまなくても飲み込めるようになっていました。飲み込みやすいようにとろみをつけてあると説明してもらいました。味も、そんなに悪くなく、普段何を食べているのかを知ることができるいい機会だったので良かったです。午後は利用者さんと施設内を車いすで散歩しました。自分達で乗っている時は少し速いスピードで押していたけど、お年寄りなので、きちんとゆっくり押してあげました。いざ人が乗っていると、コントロールが難しく、きちんと加減を考えないと、ぶつかってしまいそうでこわいちが少しヒヤヒヤしてしまいました。そして、福祉施設訪問での体験は終了となりました。

僕は、この二つの体験を通してこれまでもっていた福祉に対する

考えが変わりました。今までは、福祉＝介護という考えが自分の頭の中にあったのですが、福祉とは社会に生きる人々の幸福ということが分かりました。つまり福祉とは、この世に生きる全ての人達が幸せに生きることができるようにつくすことなのだと考えるようになりました。普段はあまりお年寄りに目を向けていませんでしたが、この体験を活かして、これからは困っているお年寄りがいたら手をさしのべて、力になってあげたいです。

「福祉について」

藤崎中学校　一年　小野有登

僕は、今まで「福祉施設」のことを、体の不自由な人たちなどの障がいを持っている人を援助するだけの施設だと思っていました。ですから、「福祉」というものは、援助が必要な人をサポートし、生活を安定させるものだけだと思っていたのです。

ですが、学校で車椅子・高齢者疑似体験や福祉施設体験学習をしてみて「福祉」についての考えが変わりました。

福祉施設体験学習をする前に、車椅子・高齢者疑似体験をしました。車椅子・高齢者疑似体験では、どちらも目隠しをしながら行いました。目が見えない人の気持ちは、どのようなものなのだろうという気持ちで体験を受けました。

車椅子体験では、車椅子を押してもらっている人の気持ちを考えることができました。車椅子を押してもらっている時、振動が体に直にきました。目隠しをしたままだったので少しの衝撃の振動でも、けっこうこわかったです。さらに、目隠しをしているので、今自分が

どこにいるのか全く分からなく、「今自分はどこにいるんだろう、どこか変なところに連れていかれてるんじゃないか。」といういろいろな恐怖心もでてきました。なにも声もなく車椅子を押したり引いたり進行方向を変えられたりするのは、けっこうこわいものでした。逆に声をかけられながら車椅子を押されるのは、安心感がありました。

高齢者疑似体験では、目隠しをしながら、階段を上がったり、椅子に座ったり、狭い通路を通ったりして、付き人と一緒に行動しました。

階段を上がるときでは、一段がどれくらいの高さなのか分からず、足を上げて前に出すのがこわかったです。上るときも下るときも転びそうでかなりこわかったです。椅子に座るときは、足や手で椅子を探らないといけないので大変でした。

狭い通路を通るときでは、どこに障害物があってどこで曲がるのか分からないので、付き人が頼りでした。

目が見えない人や、体に障がいを持っている人の気持ちが分かる

貴重な体験でした。

福祉施設体験学習では、特別養護老人ホームさんふじという場所に行きました。さんふじには、元気な方がたくさんいました。さんふじの利用者のみなさんと、洗濯物をたたんだり、お話をしたり、遊びをしたり、一緒にご飯を食べたり、歌を歌ったりしました。特に利用者の方は、お話をするのが好きなようで、ほとんどの方が笑顔で職員の方や、僕たちと話していました。

これらのような、車椅子・高齢者疑似体験、福祉施設体験学習をして、今まで思っていた「福祉」についての考えが変わりました。

「福祉」というものは、援助が必要な人をサポートし、生活を安定させるだけではなく、さらに、その人を幸せにすることが福祉なのではないかと思いました。

援助が必要な人をサポートするだけでなく、幸せにさせるのが大切だと思うので、僕もそんな人になりたいです。

福祉の仕事

藤崎中学校　一年　三浦　苺華

私の親は福祉関係の仕事をしています。大変な仕事なんだと思っていました。でも、お世話するだけでなんでそんなに大変なのかなと不思議にも思っていました。そこで、福祉体験学習で学んでこようと思いました。

福祉体験学習に行く前に、中学校で車イス・アイマスク体験があります。まずは、タオルで目をかくして、階段を歩いてみました。

階段を歩いているときは、あまりこわくなかったけど、どこが階段なのかわからないところが一番こわかったです。目が見えない人の気持ちがよくわかりました。次に車イス体験をしました。車イスは小学校の時、乗ったことがあったので初めてではありませんでした。でもタオルで目をかくして、車イスに乗るのは初めてでした。目が見えていても見えていなくても、乗り心地は、あまり変わらないだろうと思っていました。しかし、実際にやってみると、段差のところがわからないので、いつ振動がくるのかがわからず、こわかった

です。

福祉体験学習では、私は、特別養護老人ホームさんふじに行きました。

一日目は、特別養護老人ホームを見学しました。特別養護老人ホームは、部屋がたくさんあり、一人部屋、二人部屋、四人部屋とありました。ふだんは、おさるの呼びだしベルもあって、工夫があってすごいなと思いました。昼は、食事をくばったりしました。食事も、一人一人のおぼんにきらいなものなどがかいてあって、量や食材もかわっていて、作っている人もすごいなと思いました。

学した日の食事にはさんまがでていたのですが、外を見たら、炭でしっかり焼いていて本格的だなと思いました。その後、缶やテイッシュにお手玉をなげておすげんをやりました。おばあちゃんたちがいくつもおしていてすごいなと思いました。

二日目は、グループホームをメインに見学し、仕事もしました。グループホームは、フローリングでできていて、まるで、家みたいだなと感じました。私は、おばあちゃんたちと洗濯物をたたんだり、

ペットボトルのキャップを紙にのせるゲームのようなこともしました。特別養護老人ホームより、おばあちゃんたちとふれあう機会が多いなと思いました。グループホームの人は、積極的な人が多くて、話しかけてくる人がたくさんいて元気だなと思いました。午後は、職員の方が、老人ホームに入るためのテストを用意してくれました。テストの結果は、一つもまるがつかなかったので入れないみたいです。健康であることが確認できました。次に、目の見えない人にごはんがどこにあるか教える練習もしました。

しました。意外と難しかったです。その次に、おばあちゃんたちとレクリエーションをして楽しみました。二日間の福祉体験学習を通して施設で働くことは大変な面もあったけど、それ以上に、施設の入所者の方々が快適にすごせることにつながっている仕事だと感じました。福祉は、これからも、と大切になると思います。だから私は、福祉にもっと興味をもち、すべての人が思いやりをもって助けあえる世の中をつくっていきたいです。